

福井県医師会

だより

第590号 平成22年(2010)8月



花の絨毯

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：花の絨毯

福井市 石黒 信彦

高山植物には当たり年がある。この年はハクサンコザクラの当たり年で、白山に登り初めて二十年ほどになるが、これ程の群落に出会うのは初めてだ。一週間前にもこの場所に来たが、未だ蕾が多かった。晴天を期待し、満を持して再び登ってきた。その甲斐が有り、予想以上の光景に出会うことができた。一期一会。

醫 縫 録

坂井地区医師会の 活動状況と課題について



坂井地区医師会会長 藤 田 博 明

昨年4月より坂井地区医師会会長を務めています。医師会員となり29年が経過し、この間、諸先輩の御指導により地区医師会及び県医師会役員の実験を積ませていただきましたが、浅学非才の身で責任のある立場に緊張した日々を過ごしています。

私は日本医師会の医の倫理綱領を指針として、医業に従事することに心掛けていますが、達成未だ途遠しの状態です。即ち生涯学習、医療者として患者さんへの充分なる配慮の必要性、医師相互の尊重、医療関係者との協力、医療の公共性の自覚等、医師会活動の指針にもなる綱領です。これらの綱領の主旨を活かす地区医師会の活動として日常診療に役立つ研修会や講習会の開催、市民公開講座の参加協力、学校医活動、予防接種、各種検診、自治体や行政機関等の保健衛生事業への協力、休日在宅当番医制の実施、介護保険事業への協力等があります。

さて当医師会の10年を経過したケアセンター事業と、県の委託事業として取り組んでいる在宅医療コーディネーター事業の概要と現状を報告します。当医師会は医師会館建設を期に共同利用施設として平成5年より運営していた訪問看護ステーションに加えて居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、デイサービス事業を開設し、在宅医療、在宅ケアの拠点として会員の利用と地域医療、福祉への貢献を目指し運営しています。ケアセンターの運営は、会員が運営委員として各事業所毎に月1回の運営委員会を開催し、事業所の管理者より報告を受け、協議事項や会計等の検討をし、運営しています。私も訪問看護ステーション開設以来長く運営委員を務めましたが、運営委員会では会員相互の交流や、他職種との連携を経験し医師会活動への登竜門の役割も担っています。ケアセンターの経営は開設当時と比べると、地域内の訪問看

護ステーションや通所介護施設の増加、当施設の規模の制約、必要スタッフの確保維持の困難等もあり最近はやや厳しい現状です。しかしケアセンター全体でのスタッフ研修による質の向上やサービス内容の充実を計る方策を運営委員、スタッフを中心に検討し運営に当たり会員の皆さんの協力、利用により今後も事業の継続、発展に努力したいと思っております。

また一昨年の9月より在宅医療コーディネーター事業に取り組んでいます。県の委託事業で坂井ケアネットとして開始しましたが、事業目的は病院退院後の在宅医療の受け皿となり、患者本位の継続医療の提供、診診連携により医師相互の負担軽減、医療情報の共有による医療の質の向上、患者を支える医療、介護、福祉サービス機関との連携によるチーム医療を目指しています。事業内容は①在宅主治医、副主治医、専門医、歯科医、薬剤師、福祉サービス機関等の登録と紹介、②相談窓口の開設、③在宅医療に関する研修の実施、④医療材料の共同購入です。幸い経験豊富で優れたコーディネーターにより発足していますが、事業の意義、内容、有用性の周知と会員の参加が充分とはまだ言えず、今後の事業継続の課題となっています。

以上私の医師会活動への基本姿勢と当医師会の活動事業の一端を述べましたが、今後公益法人法改正への対応、来年の県医師会総会、90回を迎える県医学会の担当等当面する課題については委員会を通じ会員各位の参加による協議、協力をお願いする所存です。今後とも県医師会を始め諸先生方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。